



小室たかえの議会報告

(2022年3月定例議会から)

<https://komuro.kanagawanet.jp> TEL080-9152-3158



子どもの権利を守る条例

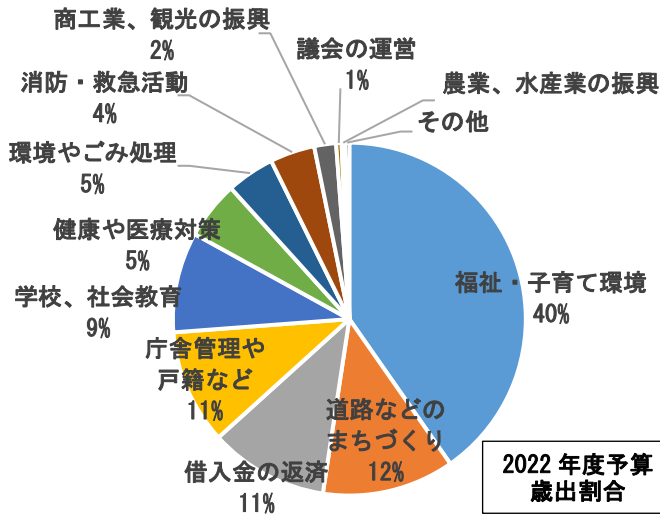
議員提案の条例、3月定例議会で可決

議員提案条例として、議員による協議会で策定を進めていた子どもの権利の条例が、「横須賀市子どもの権利を守る条例」として3月定例議会に上程され可決しました。7月1日施行。

当初、政策検討会議に提案した立場ではありますが、協議会は、学識経験者などの専門家を含まず、一年余の短期間と、策定には限界がありました。

市民意見の聴取会は1回行われたもの子ども自身の声を聞く機会なく策定されたこと、権利擁護（相談、救済）のための独立した第三者機関がないことは問題です。

条例制定は、ゴールではなく新たなスタートです。今後も、市民の皆さんと共に、子ども政策を進めていきます。



2022年度予算 子育て支援の観点から

注目の重点施策

2022年度一般会計予算は1574億5000万円で、前年度比1.3%減となりました。

最重要施策のうち、子ども・子育て関連では、

- ・ 放課後児童クラブの常勤支援員の賃金改善
 - ・ 放課後子ども教室の拡充（市立小学校全46校中、現状の5校から26校へ）
 - ・ スクールソーシャルワーカーの増員
 - ・ 医療的ケア児の受け入れに係る保育園での看護師配置
 - ・ 市立中学校全校への学校司書の配置
 - ・ 離婚後の養育費確保のための裁判所への強制執行申し立て費用の助成
- などに注目しています。これらの施策がしっかりと実行されるよう、注視してまいります。

放課後の居場所は、のんびりしたり、遊んだりできる場に

小学生の放課後の居場所として「放課後子ども教室」の全校配置を進めるにあたり、運営者や現場の担い手の選定は重要です。現行の5か所においては、市内NP

Oや市外事業者など様々です。実施内容も、学習中心、遊び中心などそれぞれで、横須賀市の放課後子ども教室の在り方が不明確です。

子どもの現状について、子供・若者肯定感の低さを報告しています。

一方、自由な遊びが自己肯定感を育むとの研究報告もあり、国連子どもの権利委員会は子どもの遊ぶ権利の保障を日本政府に勧告しています。

放課後子ども教室が、子どもの権利条約31条の遊ぶ権利を保障する場であるよう、本会議で質しました。権利保障についてはそのように考えるとの答弁ですが、各教室の実施内容については、委託事業者の考えもあるとのこと。引き続き、真に子どものためのも場となるよう求めていきます。

土日祝日や夏休みなどの長期休みには放課後子ども教室は実施せず、行政センター内に誰でも利用できる居場所を常設すること。老朽化した青少年の家が順次廃止されることもあり、子どもの居場所として必要な条件を満たすものとなるよう求めていきます。

家庭での子育て

支える施策は足りているか

家庭での子育て（未就園児家庭）を支える施策については、重点施策にない上に、一時預かり定員の一部を待機児対策として活用するとしています。

井保育園でそれぞれ3人分を活用。これまでの利用実績からみて問題ない



と言います。待機児対策は重要ですが、育児うつや虐待の予防のためにも、私はレスパイトのための一時預かりを勧めたことから、利用実績が少ないことへの検証が必要だと思えます。

長引くコロナ禍で、子育て支援センター愛らんども人数や時間の制限を続ける中、外出や対人を控えるような状況が、子どもの発達に影響を及ぼしています。保護者のメンタルケアを含め、積極的な関与が必要となつていますが、その視点がみられないため新年度予算には反対しました。

自衛隊の新たな弾薬庫 市民への安全対策は？

海上自衛隊の比与宇弾薬庫（田浦港町）建設について、総務常任委員会へ質問しました。国際交流・基地政策課長、市長室特命参加が答弁。

田浦駅から近く、湾を隔てた目の前には田浦中学校もある場所です。しかし、建設についての説明会もなく、市も国に実施を求める考えはないとのこと。

国からは、運用に関してはしっかりと安全性を有してやっていくとの口頭説明があったと言うものの、自衛隊の弾薬等運搬中の事故は、17年に1件（熊本県）、19年に1件（山形県）あり、隊員が死亡。絶対に安全とはいえません。

「今回は増設。これまでも事故はなく、今後も同じ手法で運搬するのだろうか」との答弁は、他人事のようです。今後引き続き注視していきます。

